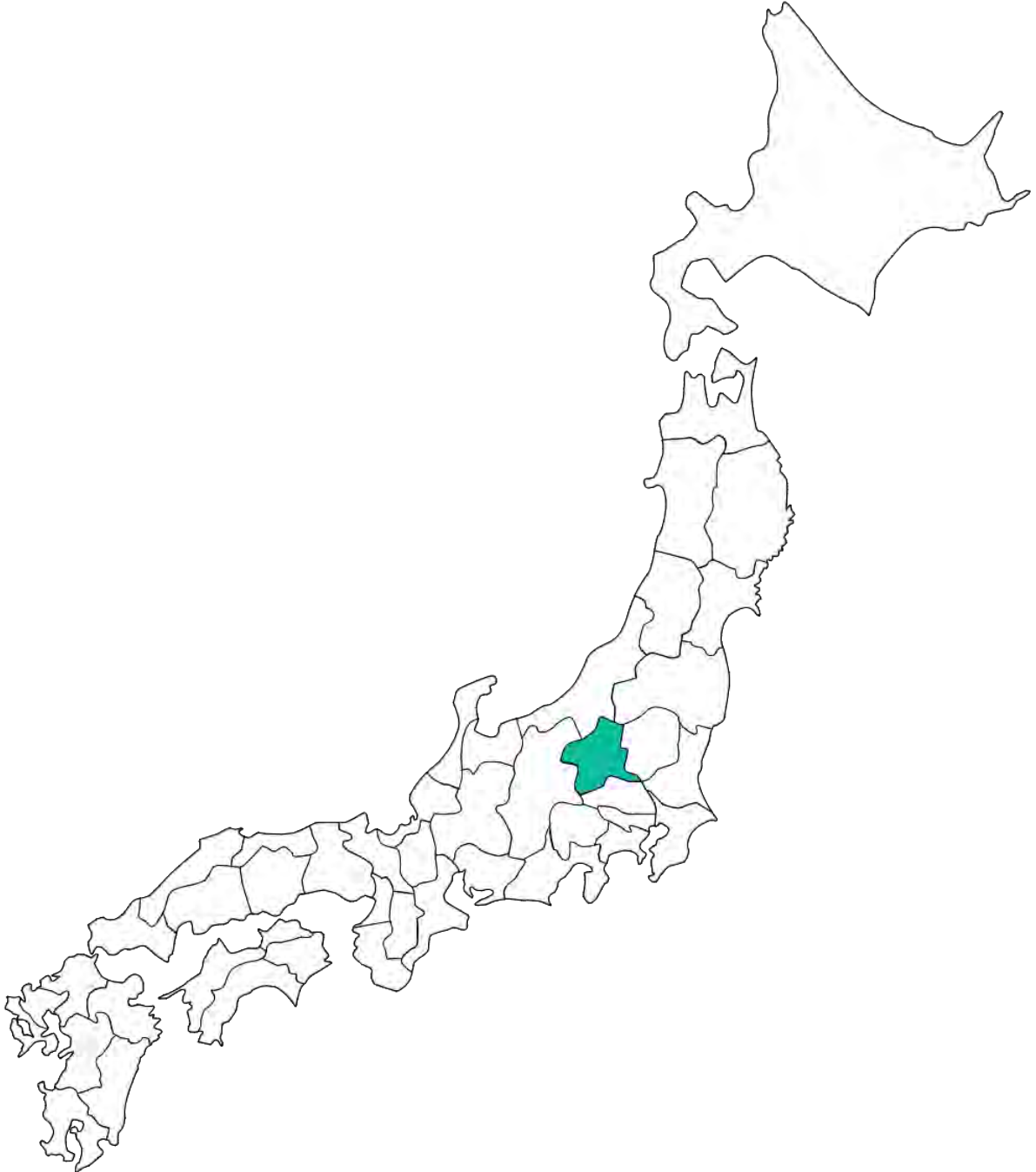


群馬県の取り組み

前橋赤十字病院
碓井祐太郎





群馬県



群馬県



【人口】 約192万人

【県域】 4

【1人あたりの車所有台】

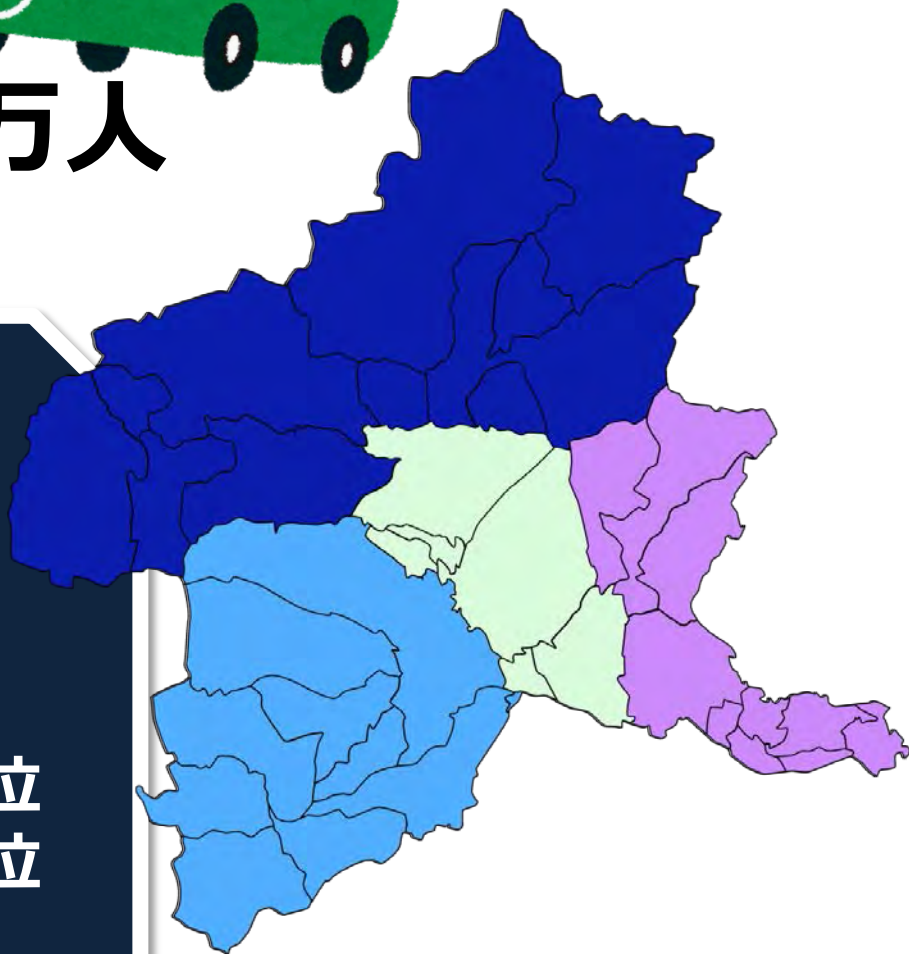
1位：0.674台/人

(全国：0.470台/人)

【交通事故発生状況】

H21年：全国ワースト3位

H22年：全国ワースト5位



群馬県高次脳機能障害支援拠点機関

日本赤十字社 群馬県支部
前橋赤十字病院

- 31診療科
- 592病床(一般)
- 平均在院日数13.5日
- 27指定機能
- 支援Co.
社会福祉士・精神保健福祉士 2名





当県の支援体制

相談支援

前橋赤十字病院

研修事業

群馬県こころの健康センター

ネットワーク充実

群馬県障害政策課

普及啓発

全機関

前橋赤十字病院の強みと苦手なこと

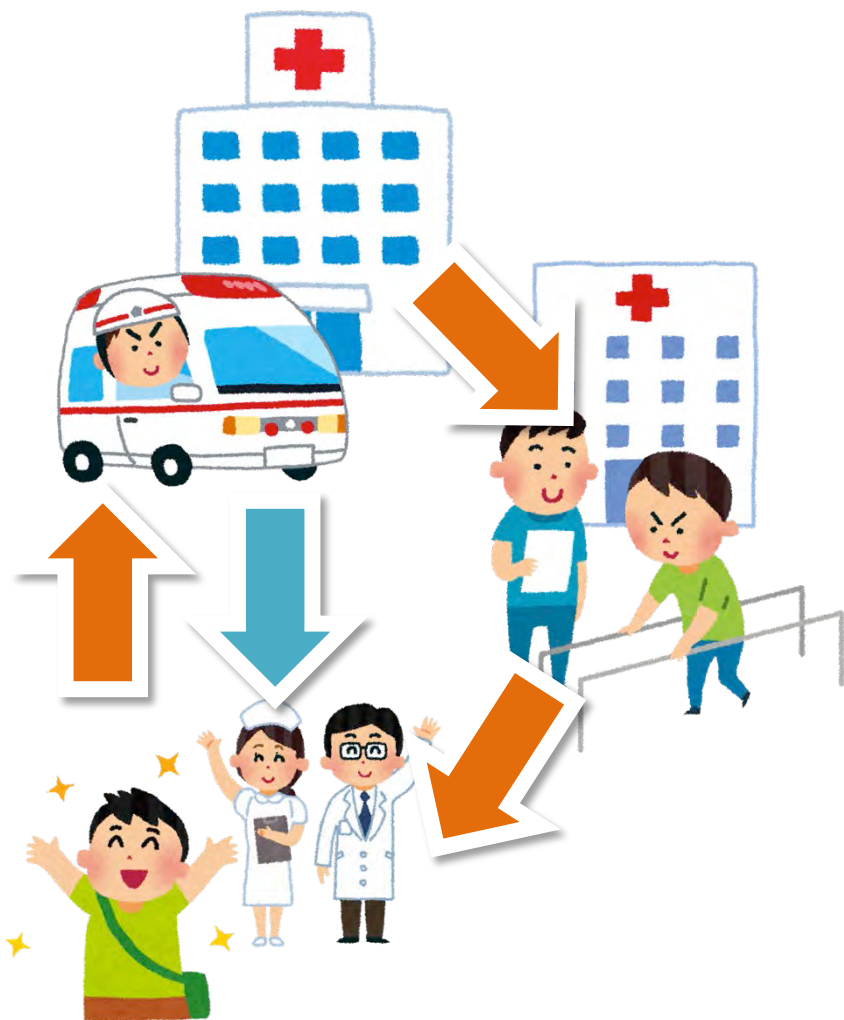


【社会適応期川の提供が難しい】

【生活への密着感はやや薄い】

- ・急性期という性質上、地域へつなぐという色合いが濃く、外来フォローも長期は行えない
- ・急性期という性質上、非日常感がある

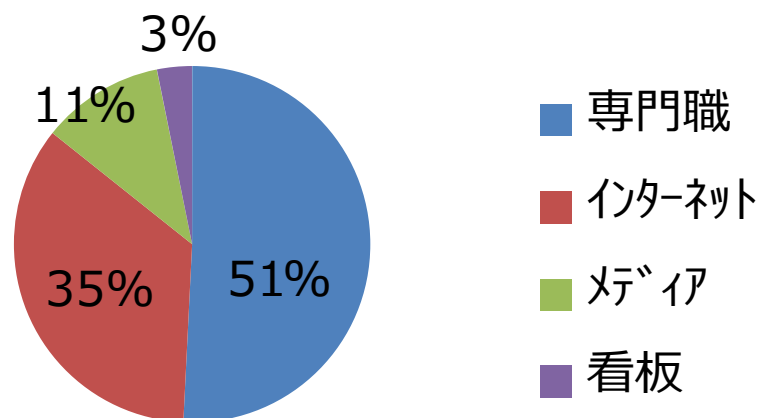
前橋赤十字病院の強みと苦手なこと



【支援のタイミングが多数ある】

- ・急性期退院期
- ・回復期退院後、外来f/u時

※何で拠点機関を知ったか



前橋赤十字病院の強みと苦手なこと



【職種が豊富】

- ・ Dr.(脳外・神内・精神・リハ)
- ・ Ns.(脳卒中リハ認定 *近領域で認知症認定も)
- ・ PT/OT/ST/MSW/PSW/CP

【既存ネットワークの活用】

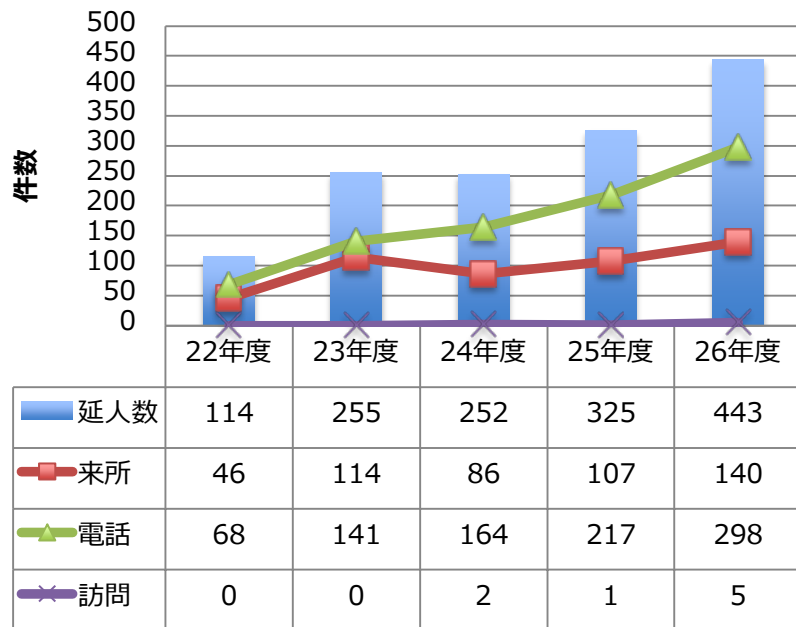
- ・ 脳卒中地域連携クリニック

当県、拠点機関取り組みのフォーカス

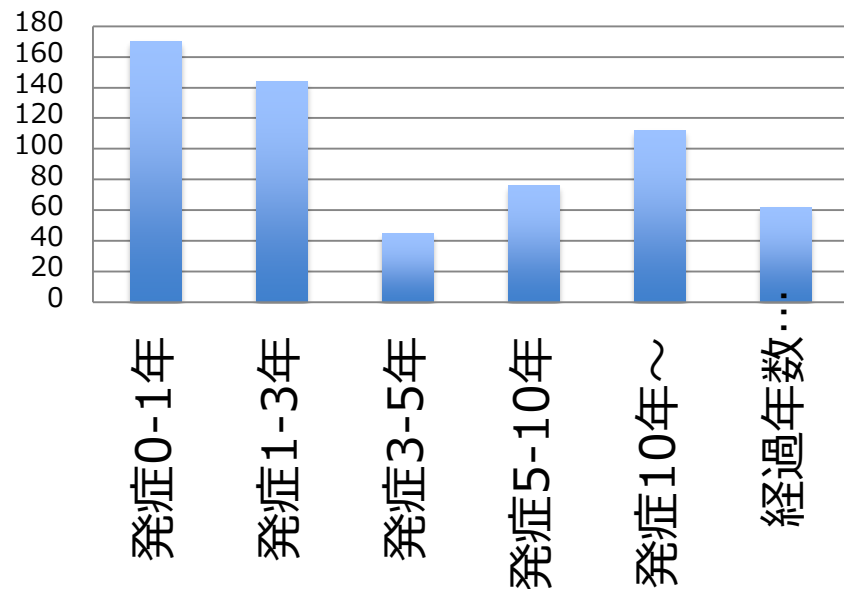
- ・ 個別支援においては急性期型拠点機関のメリットを最大限活用する
- ・ 既存ネットワークの最大限の活用
- ・ 支援は当院だけでは完結しないので、ツールを開発し支援の標準化

結果、相談件数は年々増加+早期介入
 当院なりの良さが活かされたという結果？
 (だといいのだが・・・)
 今後、多角的に確認してみたい。

年次別相談延件数の推移
 と相談方法

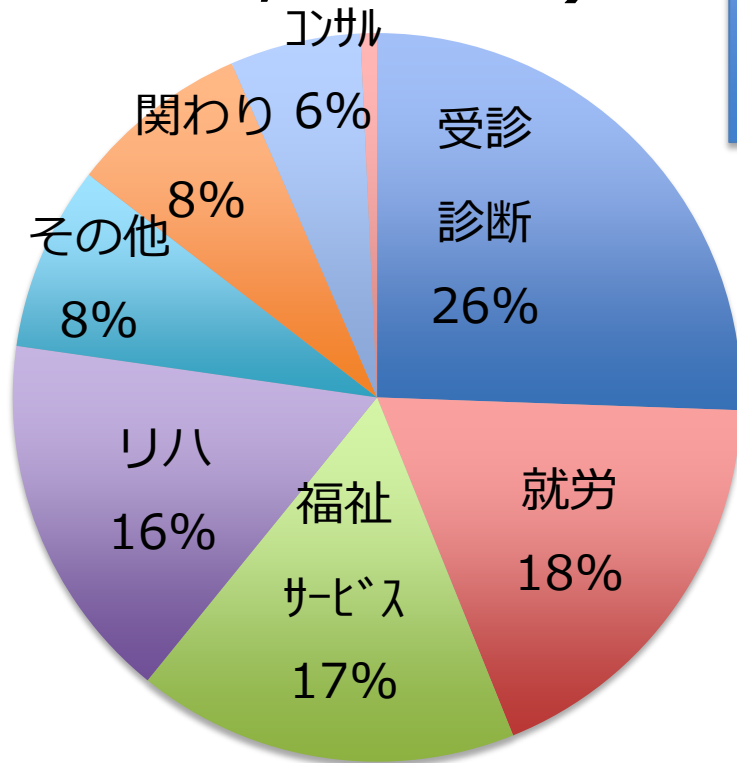


支援開始時における
 発症・受傷経過年数
 (H22-26年度)



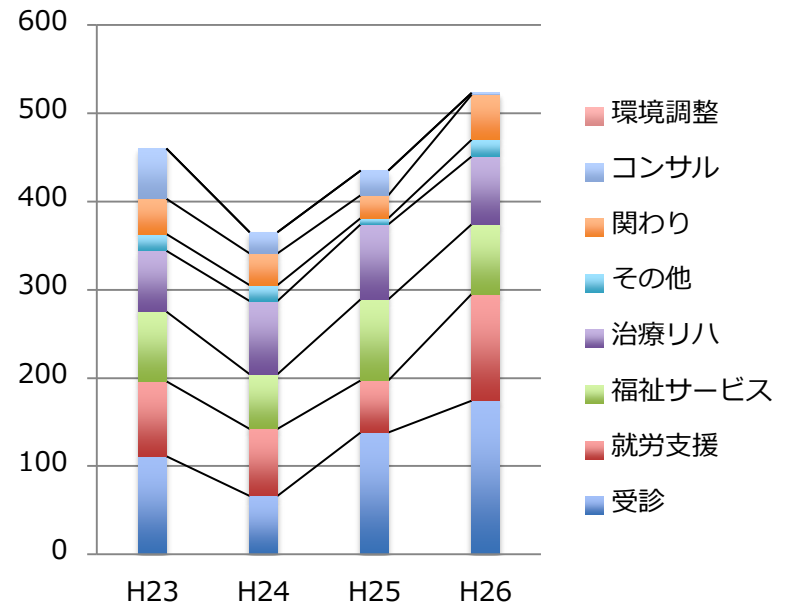
主な支援内容(H23-

26,N=1913)



受診・診断相談からはじまり、
就労・福祉サービス
リハビリテーションへ・・・

年次別、支援内容推移



県全体の支援レベルアップを

県全体の支援レベルアップを 〈支援ツールの開発〉

ぐんま高次脳機能障害 あんしんブック



群馬県のマスコット「ぐんまちゃん」

こうじのうきのうしょうがい 高次脳機能障害とは？



高次脳機能障害とは、脳卒中などの病気や事故で脳が損傷を受けたことによる後遺症です。記憶力や注意力、感情のコントロールが苦手になる等の症状が特徴です。

【あんしんブックの使い方】

●●● 高次脳機能障害の症状と対応 (3ページ～)
対応で困った時や、悩んだ時に参考にしましょう。

●●● 医療から生活までの流れ (9ページ～)
「日常生活には戻れるのだろうか?」「仕事はできるようになるのだろうか?」など、心配な事も沢山あると思います。この冊子には一般的などのような経過が考えられるかが書いてありますので、確認してみましょう。

●●● 記録のページ
記録をしていきましょう。高次脳機能障害は目には見えにくい障害です。他の方に障害の事を伝えるための道具としてあんしんブックを使用しましょう。例えば、年金の診断書を主治医の先生にお願いする際にこの冊子を見てもらいましょう。当てはまる項目には「」を入れていきましょう。



【作成】

**群馬県
高次脳機能障害
支援連絡会**

- 目的：**
- ① 長期的な生活展望・社会資源がわかる**
 - ② 症状の理解と対応方法がわかる**
 - ③ 当事者自身の障害理解の支援をする**
 - ④ 他者に障害を説明できる媒体になる**

【医療】

【急性期医療機関】【医】

救命・治療をおこないます。

<初診医療機関>

初診日：____年____月____日

医療機関：_____

診断名：_____

<入院した場合>

入院日：____年____月____日

医療機関 _____

退院日：____年____月____日

【リハビリテーション】【医】

理学療法・作業療法・言語療法など、必要に応じ転院して専門医療機関で行います。

<転院した場合>

医療機関：_____

入院日：____年____月____日

退院日：____年____月____日



【精神科】【医】

意識の障害や、高次脳機能障害の症状により、自分の状況がわからず、治療を拒否したり、怒りやすくなるなどの症状が現れる方もいます。必要に応じて、専門機関で治療を行います。

<加療を行った場合>

転院 通院 入院中の医療機関
医療機関 _____

入院日：____年____月____日

退院日：____年____月____日



【退院の準備】

【退院後の生活を見据えた環境調整】

御本人の年齢や、病名によって、使えるサービスが異なります。病院のソーシャルワーカーに相談してみましょう。



【障害者総合支援法（自立訓練）】【障訓】

市町村の認定がある方で、在宅復帰・社会復帰を目指して一定期間リハビリの継続を受けることもできます。介護保険が使える方は、原則介護保険が優先になります。

<入所した場合>

施設名：_____

入所日：____年____月____日

退所日：____年____月____日



【介護老人保健施設】【介】

介護保険を活用できる方で、要介護 1 以上の認定を受けている方は、在宅復帰の為に、リハビリやケアの継続を一定期間受けることもできます

<入所した場合>

施設名：_____

入所日：____年____月____日

退所日：____年____月____日

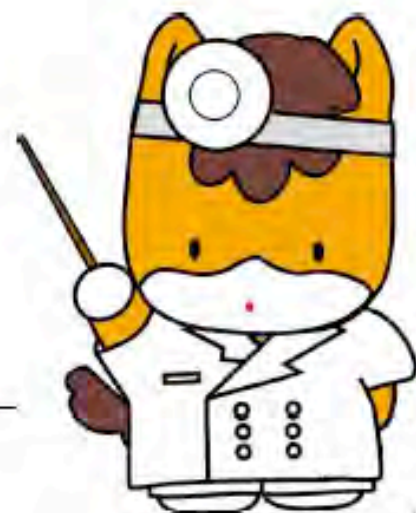


高次脳機能障害の症状と対応

高次脳機能障害の症状と対応で悩んだ時に…

記入日：____年____月____日

記入者(一緒に記入した方)：_____



<記憶の障害>

- 約束を忘れる。
- 何度も同じ失敗を繰り返す。
- 習慣化することが難しい(毎日やらなければならないことができない)。 など

<ご本人へ>

- ・ 忘れてしまわないように、メモ帳やカレンダー、タブレット端末を持ち歩き、その場で記録するようにしましょう。
- ・ 記憶する時は、「見る・聞く・触る・嗅ぐ」などいろいろな感覚器官を使いましょう。

<ご家族・支援者の方へ>

- ・ 伝えたい事はできるだけ短く伝えましょう。
- ・ 約束を忘れたことは責めず、その場でメモやカレンダーを見ることを提案しましょう。
- ・ 暗記するよりも経験したことの方が記憶に残りやすいと言われています。

【受傷・発症から1年半目の記録 1/4 ページ】

※障害年金診断書をお願いする際に

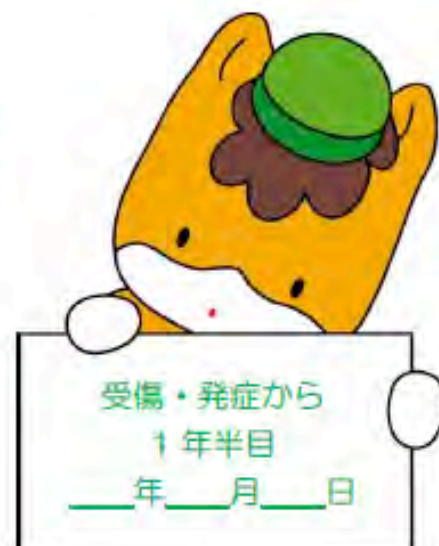
このページを医師に見てもらいましょう

●●●記録のページ

左の欄には当てはまるものにチェックを入れましょう

右の欄には具体的な出来事を記入しましょう

記入した人： _____



●●●日常生活の様子はいかがでしょうか

<こんなことはありませんか？>

- 困っても自分から助けを求めない
- 留守番中の電話や訪問の伝言ができない
- 単独外出で道がわからなくなる
- 外出時思いつきで目的地を変え対応できなくなる
- 時間に合わせて行動ができない
- 会話や動作中に思考停止することがある

<具体的な出来事を記入しましょう>

支援者連絡先

支援者の連絡先を
下の表に記録しておきましょう



●種別●	●事業所名●	●担当者(職種)●	●連絡先●
急性期医療機関		()	
リハビリ病院		()	
かかりつけ医		()	
精神科病院		()	
相談支援事業所		()	
地域包括支援センター		()	
居宅介護支援事業所		()	
		()	
		()	
		()	
		()	
		()	

『どのサービスが利用できるのだろうか?』

『その事業所はどこにあるのだろうか?』

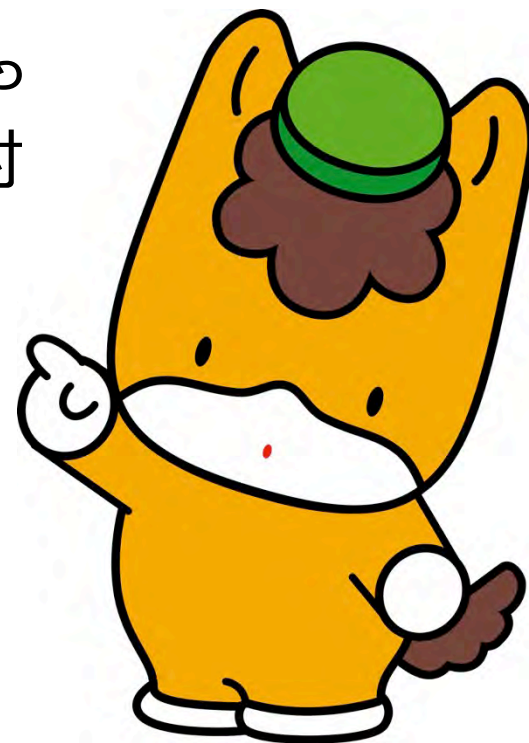
今のご本人の状態が分かる、最後に入院/入所していた病院のソーシャルワーカーや施設の相談員に相談してみましょう。相談先に困った時は下の相談先に連絡をしてください。

●事業所名●	●連絡先●
群馬県高次脳機能障害支援拠点機関 (前橋赤十字病院 相談支援センター内)	027-224-2995
群馬県こころの健康センター (高次脳機能障害者と家族の教室)	027-263-1166



<課題点>

- ・ クリニカルパス化は今回は見送り
(適用基準設定、アウトカム設定や
計画管理の問題など、十分な検討
が必要と判断した為)
- ・ 小児の活用は想定していない
- ・ 今後、本冊子活用の効果を
評価していきたい



～群馬県の小児支援事例～

救命救急から全ての段階で支援機関が異なるが、他機関の多職種がチームとしてうまく機能し、高校進学を支援した一例

まとめ

当県に高次脳機能障害に特化した機関は少ないが丁寧にミクロ視点で支援を行うことにより、既存のネットワークで支援ができています。

以上、当県の取り組みを報告した。この取り組みが高次脳機能障害者のニーズと合っているか、今後は調査分析を検討していきたい。